

アンデス諸国学生派遣プログラム募集要項

1. 概要

山形大学は、平成 27 年度に大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業」「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラムに採択されました。このプログラムの一貫として、南米 3 カ国（ペルー、ボリビア、チリ）における短期研修を実施します。学生は、これら 3 カ国において現地の学生とともに、天然資源やエネルギー資源を用いた産業開発、貧困問題などの解決に向けた福祉開発、環境保全に関する取り組みなどを現地訪問型で学習するとともに、グローバルコミュニケーション能力とリーダーシップの育成ならびにバイタリティの向上を目指します。

2. 目的

山形大学、米沢栄養大学、鶴岡高専の学生を南米 3 カ国に派遣し、現地の協定校の学生とともに研修に参加することで、学生のグローバル能力を向上させ、多文化共生について理解を深めます。また現地研修を通じて実際の南米諸国の課題を理解し、解決策を模索するとともに、グループワークなどを通じてコミュニケーション能力、リーダーシップ力、企画力などの能力の向上を図ります。将来的に国際協力の領域やグローバル企業で働くことができる能力を育成します。

【育成する人材像】

- 経済・福祉・自然の再生産に貢献できるバランスの取れた人材で、3 カ国語（日本語・英語・スペイン語）の運用能力とコミュニケーション力に長けた人材。
- 行動力とバイタリティに溢れ、国際協力や国際プロジェクトに積極的に取り組める人材。
- リーダーシップを発揮して組織をまとめて先導し、日本とアンデス諸国のブリッジになりうる人材。
- 相手国の多様な文化・価値・技術・社会を理解し、プロジェクトを的確に企画・実施できる人材。

3. 日程

※ 具体的な日時については確定次第、HP 等でご連絡します。派遣中は引率のために 2 名以上の教員が同行します。

事前学習会	出発日	帰国日	事後学習会
2019 年 1 月中旬	2019 年 2 月中旬～ 下旬	2019 年 3 月上旬～ 中旬	2019 年 4 月中旬

4. 募集人数

全体で 12 名程度

5. 応募条件

以下の全ての条件にあてはまることが応募要件となります。

- *日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている者（特別永住者を含む）。
- *山形大学、米沢栄養大学に在籍する学部1、2、3、4年生または修士1、2年生（鶴岡高専については専攻科の1、2年生または本科の4、5年生）。但し、来春卒業予定の学生は除く。
- *各キャンパスにて実施される事前学習会（米沢キャンパス、鶴岡キャンパスについては遠隔システムを用いた受講の可能性あり）を含めた全ての日程に参加できること。
- *派遣決定後、プレゼンテーションやレポート等の事前課題を提出できること。
- *滞在中、健康面を含めた必要な自己管理が出来ること。
- *事後レポートの提出すること。また、報告会等へ参加し、本プログラムの情報発信に協力できること。
- *スペイン語の授業を履修した者（米沢キャンパス、鶴岡キャンパスおよび米沢栄養大学と鶴岡高専については録画教材を利用した学習と集中講義への参加により代替することができる。その場合、小白川キャンパスで実施される試験と同程度の試験に合格することを条件とする。また、小白川キャンパスで前年度のスペイン語講座を履修済みの者も、本応募にあたってはあらためてスペイン語の試験を受験し合格することを条件とする。）
- *英語での講義を理解し、英語でディスカッションできること。また、TOEIC (TOEIC IPを含む)、TOEFLiBT、英検、CFER等のスコアカード・資格のコピーを申請書と共に提出できること。
- ※他の資格などをお持ちの方は別途、山形大学人文学部 DTP 推進室までご相談ください。
- *渡航・滞在中の事件や事故、災害、感染症に備え、下記4つの対策をとることができる者。
 - (1)各学部学務担当（各教育機関窓口）への海外渡航届の提出
 - (2)海外旅行保険への加入（費用は自己負担）
 - (3)当プログラムで規定している海外渡航のためのワクチン接種（費用は自己負担）
 - (4)旅レジへの登録
- *保護者及び指導教員（アドバイザー等含む）の承認を得た上で、誓約書の提出ができる者
- *選考終了後直ちにパスポートを所有できること、または既にパスポートを所有している者。
（本年度の選考日程に関しては、後日 DTP ウェブサイト等を通じて通知します。）

6. 申請方法

①別紙様式1『アンデス諸国学生派遣プログラム申請書』と、②英語のスコアカードまたは資格を証明するコピー、③成績証明書を、山形大学人文学部 DTP 推進室にメールもしくは郵送で提出してください。

7. 申請締切

2018年11月30日（金）17:00 必着。

8. 選考基準・結果通知

次の基準に基づき、書類審査及び面接にてプログラム担当教員、プログラム協力教員が選考し、本人宛に通知します。

① **プログラムが目指す「養成する人材像」に対して強い意欲のある者**

- ② 諸外国の大学生及び市民等と積極的に交流を図る意欲のある者
- ③ 山形大学、米沢栄養大学、鶴岡高専のグローバル化のために取り組む意欲のある者
- ④ 英語に関する運用能力を有しており、スペイン語の習得に対しても積極的に取り組める者
- ⑤ 大学（高専）における学業成績が優秀である者。

(1) 第1次選考 書類審査

選考結果は、2018年12月7日（金）頃までにメールで申請者本人へ通知します。

(2) 第2次選考 面接審査

面接日は2018年12月中に実施し、第1次選考の結果通知の際に、面接日を調整します。※英語での口頭試問もあります。

第2次選考の結果は、2018年12月末までにメールで申請者本人へ通知します。

※ ダブル・トライアングル・プログラム(DTP)推進室からの連絡は、申請書に記入された連絡先へ行います。そのため必ず連絡の取れるアドレスを記入するとともに、毎日チェックするようにしてください。また、選考結果に関する問い合わせには、一切お答えできませんのでご了承ください。

9. 参加費用

プログラムに係る費用は、おおむね以下のとおりです。

航空券：	約340,000円
宿泊費：	約80,000円
食費：	約45,000円
現地交通費：	約30,000円
海外渡航保険：	約10,000円
合計：	約505,000円

※上記のうち学生負担は約20万円程度を予定しています。JASSOが定める成績基準を満たしている場合には、「海外留学支援制度（重点政策枠）」により、うち6万円程度が支給される可能性があります（人数制限有）。

10. 事前・事後学習

派遣学生は、事前学習会および事後学習会への参加が必要となります。また、プログラム終了後「アンデス諸国学生派遣プログラム学習報告書」の提出が必要です。

事前学習会及びオリエンテーション

派遣合格者を対象に別途、連絡します。平成31年1月に実施する予定です。

事後学習会

派遣学生を対象に別途、連絡をします。平成31年4月に実施する予定です。

11. 渡航準備について

次の点については、派遣決定後に速やかに学生が各自で手配・準備してください。

(1) パスポート・ビザ

パスポートの残存有効期間が南米滞在日数プラス6ヶ月以上必要です。ペルー入国のビザは必要ありませんが、アメリカを経由する場合、事前に電子渡航認証システム（ESTA）により、渡航認証を取得する必要があります（自己負担）。

(2) 感染性症等に対する予防措置

① 黄熱病

派遣される学生は必ず予防接種を受けてください（自己負担）。予防接種は、下記で事前に申し込んでから接種願います。また証明書を必ずパスポートと一緒に保管・持参してください（予防接種の有効期間は10年間）。

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター(仙台検疫所)

電話：022-367-8101

詳細：https://www.forth.go.jp/keneki/sendai/yobou/yobou_area.html

② A型肝炎

生水、氷、生肉、生野菜などから感染する可能性が高いです。ペルーではセビッチェに代表する魚介を使った料理が豊富であり、またボリビアでも感染報告があることから、ワクチンの接種を推奨します（自己負担）。A型肝炎のワクチンは、2～4週間の間隔で2回接種することになるため、早めに計画をたてて接種してください。

③ 高山病

ボリビアのラパス市およびウユニ市は、高山地域にあります。標高は3,500～3,800メートルほどありますので、高山病への注意が必要です。熱いお風呂に入らない、市内はゆっくり歩く、食べ過ぎない、水分を多く摂取するなど気をつけてください。高山病の予防には、薬の服用が効果的です。お近くの病院を受診し、できるだけ「ダイアモックス錠」を1週間分ほど、入手するようにしてください。米沢市立病院（米沢市）、武田内科胃腸科医院（山形市）、鶴岡協立病院（鶴岡市）等で診察を受けたうえで入手できます（保険適用外）。

④ 治安対策

派遣地域は比較的、安全な地域を選んでいますが、都市部などであっても日中でも危険な地域・場所などがあります。事前説明会などで説明をしますので、このような地域には絶対に近寄らないようにしてください。また夜間に出歩くことは非常に危険です。引率教員の指示に従って行動するようにしてください。

(3) 海外旅行保険

派遣中の海外旅行保険については各自加入してください。山形大学の学生の場合は、DTP 推進室でまとめて手続きを行います（費用は各自負担）。死亡・怪我・病気・盗難などが保障されます。これ以外の保険への追加加入については、派遣学生の任意となります。

(4) その他

厚生労働省検疫所HP等を確認し、最新の情報を得るとともに、各自で必要と思われる予防策を講じてください。

FORTH 厚生労働省検疫所

<http://www.forth.go.jp>

仙台医療センター 海外旅行外来

<http://www.snh.go.jp/Subject/25/>

12. 問合せ先

山形大学人文社会科学部 DTP 推進室

TEL: 023-628-4779

EMAIL: honbu-dtp@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

プログラムスケジュール概要（予定）

期間	学習内容
2月中旬	日本出発（成田空港集合）
2月中旬	ペルーにおける研修 ・ナスカ市を中心に学習 南米の歴史、文化、国際福祉開発、人間の安全保障等
2月下旬	ボリビアにおける研修 ・ラパス市における学習 技術移転、技術経営等 ・ウユニ市における学習 資源・エネルギー開発、産業開発等
3月上旬	チリにおける研修 ・タルカ市における学習 環境保全、農業経営と産業等 ・サンティアゴ市における学習 環境保全、大気汚染、国際機関の取り組み等
3月上旬	日本帰国（成田空港着）

※上記スケジュールは、現地の状況等により変更となる場合があります。また具体的な日程や内容については、派遣決定選抜後に説明をします。



※上記の写真は、イメージの写真です（2015年度に実施した短期派遣の写真）

◇◆ペルー共和国◆◇



【言語】

公用語はスペイン語。他にケチュア語。

【地理】

南アメリカの北西に位置し、エクアドル、コロンビア、ブラジル、ボリビア、チリと国境を接している。3つの地形に分けられ、砂漠が広がる沿岸部のコスタ、アンデス山脈が連なる高地のシエラ、アマゾン川流域のセルバからなる。

リマ市が位置するコスタは、砂漠であるものの、フンボルト海流の影響で1年を通して過ごしやすい気候である。但し5月～9月の冬季は霧が発生し、湿度が非常に高く、どんよりとした天気が続く。

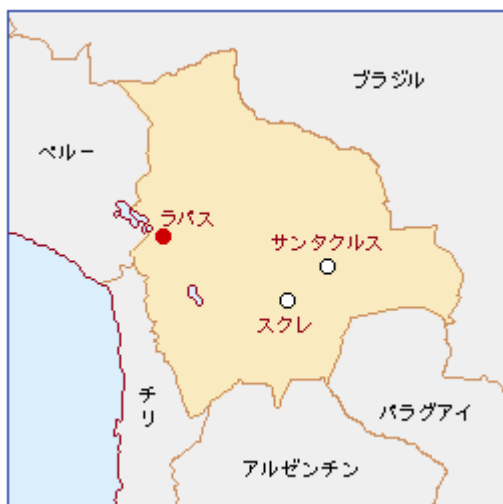


写真（左）ナスカの地上絵



（右）リマ市内

◇◆ボリビア多民族国◆◇



【言語】

スペイン語、ケチュア語、アイマラ語を中心とする。他に先住民族の言語が36言語存在する。

【地理】

南米の中心に位置し、ペルー、ブラジル、チリ、パラグアイ、アルゼンチンと国境を接している。国の東側はアマゾン地域であり熱帯気候である。一方、西側はアンデス地域の高地となっており、首都であるラパスやウユニ塩湖はこちらに属する。ちょうど中間はバジェと呼ばれ、果樹栽培に適した気候となっている。昔は海を持っていたが、チリとの戦争によって海への出口を失った。首都であるラパス市は、世界で最も高い首都とし

でも有名。また近年は、ウユニ塩湖（世界で最も平らな場所で天空の鏡と称される）が有名で、日本からも多くの観光客が訪れている。



写真（左）ウユニ塩湖



（右）ラパス市内

◆◆チリ共和国◆◆



【言語】

スペイン語

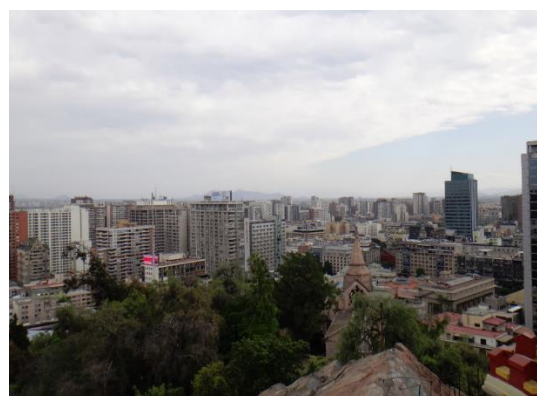
【地理】

西部には太平洋が広がっており、東部にはアンデス山脈が位置する。北部は砂漠地帯であり、南北に長い国という特徴がある。北部の砂漠地帯は、ほとんど雨が降らない。南部は年間を通じて降雨量が多く、寒い地域となっている。

鉱物資源が豊富で、日本にも銅などを輸出しており、ワインの生産や鮭の養殖でも有名である。太平洋にはモアイ像で有名なイースター島もあり、多くの日本人観光客が訪れる名所となっている。



写真（左）ワイン工場



（右）サンチアゴ市内

◇◆カトリカ大学（ペルー共和国）◆◇

【概要】

カトリカ大学は、ペルー共和国で最もレベルが高く伝統のある私立大学である。人文学部、法学部、経営・会計学部、工学部、芸術学部、教育学部、社会科学学部、情報科学学部、建築・土木学部、技術経営学部などがあり学生総数は約 2.5 万人のカトリック系の大学である。これまでに数多くの首相、閣僚、大統領らを輩出している名門大学である。ペルー国立大学長会議および国際連合教育科学文化機関(UNESCO)の評価では、2011 年から 2012 年にかけて国内ランキングは第 1 位であり日系人学生も多い。ペルー・カトリカ大学と山形大学と間では、2012 年に包括的学術協定を締結している。ペルーの中で国際化が最も進んでおり、留学生の受入れ体制も整備されている。同大学内には、山形大学のサテライト・オフィスが設置されている。



◇◆サンアンドレス大学（ボリビア多民族国）◆◇

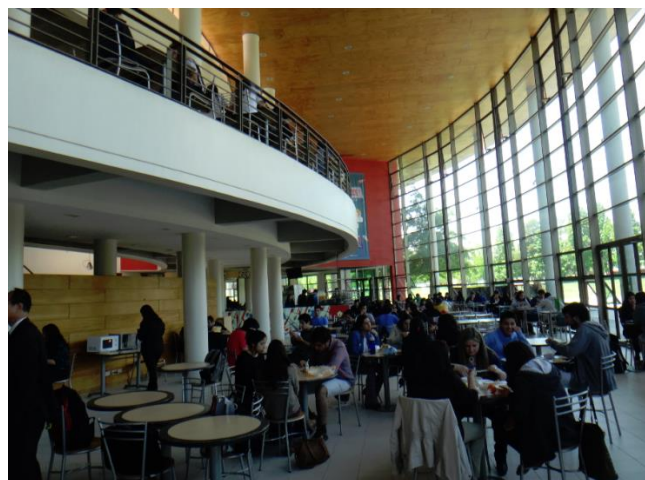
サンアンドレス大学は、ボリビア多民族国で最も権威があり、これまでに数多くの学者や大統領・閣僚を含む政治家を輩出してきた大学としても有名である。法・政治学部、経済・金融学部、建築・工芸・都市開発学部、経営学部、自然科学部、社会科学部、人文・教育学部、薬学・バイオ科学部、地質科学部、工学部、医学部、歯学部、産業技術学部などを有しており、学生総数は約 8 万人である。同国を代表する実質的な最高学府であり、1830 年 10 月 25 日に国の最高法令によって創立された。国内における大学別ランキングは常に 1 位を維持しており、同国の学術教育・研究をリードする最大かつ最高峰の国立大学である。山形大学は、サンアンドレス国立大学と 2009 年 7 月に包括的学術協定を締結しており、これまでに国費留学生の優先配置プログラム「リチウム資源開発のためのマネジメント人材育成事業」などに取り組んでおり、計 11 名の学生を大学院理工学研究科で修士課程の学生として受け入れている。



◆◆タルカ大学（チリ共和国）◆◆

国立タルカ大学は、1981年に設置されたチリ共和国の重要国立大学の1つである。2013年のスペインの学術研究機構理事会（CSIC）の調査では、チリ国内のランキングで第5位となっており、常に同国のトップ10に入る名門大学である。山形大学は、国立タルカ大学と2005年に包括的学術協定を締結している。同大学は、チリのなかでも農業や林学の研究と教育を先導する大学として有名であり、国内ランキングでも常に上位に位置する国立大学である。農学部、健康科学部、経営学部、森林科学部、法学・社会科学部、工学部、心理学部などを有しており学生総数は約1万人である。

山形大学農学部では、これまでにチリ原産のイチゴの共同研究などを行ってきた。



山形大学と大学間協定を結んでおり、今回のプログラムに参画している他大学の詳細については、以下のホームページをご参照ください。

【各大学の詳細記載】

- サンマルコス国立大学（ペルー）
<http://www.unmsm.edu.pe/>
- 国立工科大学（ペルー）
<http://www.uni.edu.pe/>
- ラ・モリーナ国立農業大学（ペルー）
<http://www.lamolina.edu.pe/portada/>